

## 資料編

### 1. 健康と文化の森地区まちづくり基本計画策定検討委員会・検討部会

#### (1) 位置づけ

有識者や関係行政機関等を中心としたメンバーで、まちづくりの方向性や方策について議論を重ね、まちづくり基本計画の検討をしました。

#### (2) 委員構成

##### 委員会の委員構成

平成25年8月26日設置

	区分	氏名	部門	職名	備考
1	学識経験者・有識者	日端 康雄	都市計画	慶應義塾大学名誉教授	委員長
2		楠本 侑司	農業	(財)農村開発企画委員会 特任研究員	副委員長
3		柳沢 厚	都市計画	C-まち計画室 代表	
4		秋岡 榮子	経済	経済エッセイスト	
5		一ノ瀬 友博	環境	慶應義塾大学 環境情報学部 教授	
6		室町 泰徳	交通工学	東京工業大学 大学院総合理工学研究科 准教授	
7		小熊 祐子	健康	慶應義塾大学 大学院健康マネジメント研究科 准教授	H26年度から
8	関係行政機関	石井 秀明 (阿部 寿志) (下村 哲也)	国土交通省	都市局 都市計画課 企画専門官	( )上段はH26年度 ( )下段はH25年度
9		数内 敏行 (三善 浩二)	農林水産省	関東農政局 農村振興部 農村計画課 課長	( )はH26年度まで
10		峯村 徹哉 (和田 潤一)	神奈川県	県土整備局 都市部 環境共生都市課 課長	( )はH26年度まで
11		花上 美智子 (池田 雅男)	"	湘南地政或県政総合センター 企画調整部長	( )はH26年度まで
12		西村 弘明 (篠原 源) (草野 伊知郎)	"	湘南地政或県政総合センター 農政部長	( )上段はH26年度 ( )下段はH25年度
13	地代表	重田 光雄	地域	藤沢市健康と文化の森地区まちづくり協議会 会長	
14	慶應義塾	河添 健	慶應義塾大学 (SFC)	総合政策学部長	
15		古谷 知之	"	総合政策学部 教授	
16	藤沢市	竹村 裕幸	藤沢市	企画政策部長	
17		武田 邦博 (新倉 力)	"	経済部長	( )はH25年度まで
18		高橋 信之	"	計画建設部長	
19		新倉 力 (藤島 悟)	"	都市整備部長	( )はH25年度まで

検討部会の委員構成

平成25年11月11日設置

	区分	氏名	部門	職名	備考
1	学識経験者・有識者	柳沢 厚	都市計画	C-まち計画室 代表	部会長
2		楠本 侑司	農業	(財)農村開発企画委員会 特任研究員	副部会長
3		一ノ瀬 友博	環境	慶應義塾大学 環境情報学部 教授	
4		谷口 信和	農業	東京農業大学 農学部畜産学科 教授	臨時委員
5	慶應義塾	池田 靖史	慶應義塾大学 (SFC)	政策・メディア研究科 教授	臨時委員
6		高野 仁	"	事務長	臨時委員
7	関係行政	花上 美智子 (池田 雅男)	神奈川県	湘南地域政総務センター 企画調整部長	( )はH26年度まで
8	藤沢市	竹村 裕幸	藤沢市	企画政策部長	
9		武田 邦博 (新倉 力)	"	経済部長	( )はH25年度まで
10		高橋 信之	"	計画建築部長	
11		新倉 力 (藤島 悟)	"	都市整備部長	( )はH25年度まで

(3) 実施状況

まちづくり検討委員会・検討部会では以下のように検討を実施してきました。

< 検討部会 >

< 委員会 >

【平成 25 年度】

第 1 回検討部会 【平成 25 年 11 月 11 日】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・部会の目的と進め方</li> <li>・地区の概況について</li> <li>・環境共生、農業振興、健康医療のあり方</li> <li>・まちづくり方針(たたき台)</li> </ul>

第 1 回委員会 【平成 25 年 8 月 26 日】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区の概況について</li> <li>・委員会の目的と進め方</li> <li>・対象地区のまちづくりの課題と主な論点</li> <li>・部会の設置</li> </ul>

第 2 回検討部会 【平成 26 年 1 月 24 日】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり方針案</li> <li>・環境共生、農業振興、健康医療の基本方針</li> <li>・まちづくりビジョン(たたき台)</li> </ul>

第 2 回委員会 【平成 26 年 2 月 4 日】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来のまちづくりビジョン案</li> <li>・まちづくりの展開イメージ案</li> <li>・土地利用構想案</li> </ul>

第 3 回検討部会 【平成 26 年 3 月 18 日】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり基本構想(案) <ul style="list-style-type: none"> <li>- 位置づけ、現況、課題</li> <li>- まちづくりビジョン、土地利用構想等</li> </ul> </li> </ul>

第 3 回委員会 【平成 26 年 3 月 27 日】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり基本構想(案) <ul style="list-style-type: none"> <li>- 位置づけ、現況、課題</li> <li>- まちづくりビジョン、土地利用構想等</li> </ul> </li> </ul>

【平成 26 年度】

第 4 回検討部会 【平成 26 年 7 月 31 日】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり基本構想(案)の確認</li> <li>・2014 年度の目的と進め方</li> <li>・テーマ別まちづくりの検討方針</li> <li>・土地利用及び都市施設の検討条件</li> </ul>

第 4 回委員会 【平成 26 年 8 月 18 日】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり基本構想(案)の確認</li> <li>・2014 年度の目的と進め方</li> <li>・テーマ別まちづくりの検討方針</li> <li>・土地利用及び都市施設の検討条件</li> </ul>

第 5 回検討部会 【平成 26 年 11 月 4 日】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ別まちづくりの検討(環境共生)</li> <li>・土地利用・都市施設の基本的考え方</li> </ul>

第 6 回検討部会 【平成 26 年 11 月 25 日】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ別まちづくりの検討(健康医療)</li> <li>・まちづくりのイメージ(駅周辺の空間構成)</li> </ul>

第 7 回検討部会 【平成 27 年 1 月 13 日】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ別まちづくりの検討(農)</li> <li>・地域住民等の認識やニーズ、地元協議会での検討状況</li> <li>・まちづくりイメージ(駅周辺、住宅地など)</li> </ul>

第 5 回委員会 【平成 27 年 1 月 26 日】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討部会や協議会等の経過・状況</li> <li>・まちづくり基本計画の構成</li> <li>・まちづくり基本計画のたたき台 (テーマ別まちづくり、まちづくりイメージ)</li> </ul>

第 8 回検討部会 【平成 27 年 2 月 23 日】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ別まちづくりの検討(活力創造・文化・交流)</li> <li>・まちづくり基本計画たたき台</li> </ul>

第 9 回検討部会 【平成 27 年 3 月 25 日】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本計画案とりまとめ(テーマ別まちづくり、土地利用・都市施設計画、実現化方策)</li> <li>・まちづくり基本構想の確認</li> </ul>

第 6 回委員会 【平成 27 年 3 月 30 日】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本計画案とりまとめ(テーマ別まちづくり、土地利用・都市施設計画、実現化方策)</li> <li>・まちづくり基本構想の確認</li> </ul>

【平成 27 年度】

第 10 回検討部会 【平成 27 年 11 月 25 日】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり基本計画の確認</li> </ul>

第 7 回委員会 【平成 28 年 1 月 25 日】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり基本計画の確認</li> </ul>

## 2. 健康と文化の森地区まちづくり協議会

### (1) 位置づけ

本地区のまちづくりを検討するにあたって、地域の実態や意向を十分反映するため、地元地権者や地域住民等で構成される「まちづくり協議会」を発足しました。

### (2) 委員構成

平成25年3月18日設置

	区分	氏名	住所・役職等	職名	備考
1	地権者代表委員	伊澤 和男	遠藤	計画区域内 土地所有者(公募) 遠藤土地改良区	
2		飯島 和春	遠藤	計画区域内 土地所有者(公募) 遠藤土地改良区	
3		光洋建設 (中川貴博)	大庭	計画区域内 土地所有者(公募) 遠藤土地改良区	
4		船橋 輝行(千代子)	藤沢3丁目	計画区域内 土地所有者(公募) 遠藤土地改良区	
5		小林 一夫	遠藤	計画区域内 土地所有者(公募) 遠藤土地改良区	
6		普川 進武	遠藤	計画区域内 土地所有者(公募) 遠藤土地改良区	
7		普川 健史	遠藤	計画区域内 土地所有者(公募) 遠藤土地改良区	
8		重田 顕	遠藤	計画区域内 土地所有者(公募) 遠藤土地改良区	
9		重田 光雄	遠藤	計画区域内 土地所有者(公募) 遠藤土地改良区	会長
10		三堀 晴茂	善行	計画区域内 土地所有者(公募) その他地区	
11		飯島 富士男	遠藤	計画区域内 土地所有者(公募) その他地区	
12	市民委員	三田 勉	会長	遠藤郷土づくり推進会議委員(推薦)	
13		富田 修 (小堺 忠秋)	(副会長)	遠藤郷土づくり推進会議委員(推薦)	( )はH25年度まで
14		青木 浩一		北部自治会(推薦)	副会長
15		飯島 淳司	前会長 (会長)	西部自治会(推薦)	( )はH24年度まで
16		飯島 昭	会長	遠藤西陪対策委員会(推薦)	
17		内田 尚子	遠藤	遠藤地区市民(公募)	
18		重田 広	遠藤	遠藤地区市民(公募)	
19		青木 幸男	遠藤	遠藤地区市民(公募)	
20	関係団体	矢ノ目 優	総務課長	慶應義塾大学(SFC)	
21		飯島 正博	委員	藤沢市農業委員会(御所見・遠藤)	
オブザーバー		金子 雅則 (赤尾 博之)	センター長	遠藤市民センター	( )はH25年度まで

### (3) 実施状況

まちづくり協議会では、以下のように検討を実施してきました。

No	日程	検討内容
第1回	平成 25 年 3 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり協議会の目的と今後の進め方</li> <li>・いずみ野線延伸の実現に向けた検討状況報告</li> </ul>
第2回	平成 25 年 5 月 27 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会の名称・設置要綱について</li> <li>・アンケート調査結果の報告</li> <li>・第 5 回協議会での視察先の選定</li> </ul>
第3回	平成 25 年 7 月 24 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちあるきの実施</li> <li>・まちあるきで問題だと思った場所（改善すべき点）良かったと思う場所（保全したい点）等の意見出し</li> </ul>
第4回	平成 25 年 9 月 20 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ形式によるまちづくりの方向性等に関する要望等の意見出し</li> </ul>
第5回	平成 25 年 11 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「柏の葉キャンパスタウン駅」周辺のまちづくりの視察（柏の葉アーバンデザインセンターと千葉大学植物工場）</li> </ul>
第6回	平成 26 年 1 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ形式によるまちづくりコンセプトに関する意見出し</li> </ul>
第7回	平成 26 年 2 月 27 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討委員会で検討状況の報告</li> <li>・まちづくり基本構想についての意見交換</li> </ul>
第8回	平成 26 年 3 月 24 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり基本構想（案）についての意見交換</li> </ul>
第9回	平成 26 年 6 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり基本構想（案）の確認</li> <li>・市街化区域編入の進め方と事業手法について</li> <li>・地権者アンケートについて</li> </ul>
第10回	平成 26 年 10 月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地区画整理事業の概要について</li> <li>・事業手法に関する意見交換</li> <li>・第 11 回協議会での視察先の選定</li> </ul>
第11回	平成 26 年 11 月 17 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地区画整理事業の先進事例視察 つくばエキスパレストタウン三郷中央（三郷中央駅周辺） みそのウイングシティ（浦和美園駅周辺）</li> </ul>
第12回	平成 26 年 12 月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地区画整理事業の進め方について</li> <li>・駅周辺の土地利用や施設等のあり方についての検討</li> <li>・検討委員会で検討状況の報告</li> </ul>
第13回	平成 27 年 3 月 3 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり基本計画たたき台についての意見交換</li> <li>・駅周辺の空間形成のあり方についての検討</li> </ul>
第14回	平成 27 年 3 月 16 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地区画整理事業の先進事例視察 Fujisawa サステイナブルスマートタウン</li> </ul>
フォーラム	平成 27 年 3 月 21 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柳沢厚『健康と文化の森地区まちづくりへの期待』</li> <li>・楠本侑司『これからの都市近郊農村・農業』</li> </ul>
第15回	平成 27 年 11 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり基本計画（案）の確認</li> <li>・基本計画に基づく準備段階の進め方</li> </ul>

### 3. 健康と文化の森地区まちづくり基本計画策定検討委員会・検討部会の委員からの提言

#### (1) 一ノ瀬友博委員からの提言

まちづくり基本計画策定検討部会の委員で慶應義塾大学環境情報学部の一ノ瀬友博教授から、環境共生のまちづくりについてご提言をいただきました。

一ノ瀬委員からの提言は、主に「6 - 1 環境共生のまちづくり」にその趣旨を反映しております。

#### 藤沢市 健康と文化の森地区まちづくりに関する提言

藤沢市 健康と文化の森地区まちづくり基本計画策定検討部会 委員  
慶應義塾大学環境情報学部教授 一ノ瀬友博

#### 人口減少時代においても輝けるまちづくりを

21世紀に入り、日本は急速な人口減少と超高齢化を迎えています。地方創生が注目を集めていますが、大都市近郊もその例外ではありません。藤沢市は、首都圏の中でも依然として人口増加している都市ですが、2030年ぐらいには減少局面に入るでしょう。今後都市間の競争も激しくなることも想定し、人口減少時代にも輝ける持続可能なまちづくりを目指す必要があります。

#### 1. 遠景としての富士山と緑に恵まれた景観を活かしたまちづくり

今回検討の対象となっている地域とその周辺地域は、そのほとんどが市街化調整区域であることもあり、未だ緑地に恵まれ、藤沢市の三大谷戸の一つ笹窪谷戸も擁しています。また、富士山を望める土地でもあり、季節毎に様々な姿を見ることができます。鉄道の経路、新駅の計画、そしてまちづくりにおいて、この恵まれた環境を最大限に活かす計画が必要です。特に、環境の世紀といわれる21世紀に整備される新しい街の中心部として、駅に降り立つと緑あふれるランドスケープを実感できるデザインが求められると思います。駅から富士山を望むことは難しいかと思いますが、地上に軌道が現れ、高架になり、新駅に入る前に富士山を望めるのではないかと思います。

#### 2. グリーンインフラストラクチャーを取り込んだ21世紀型の基盤整備

新駅が予定されている周辺では、大雨の旅に冠水するような状況にあり、小出川の洪水対策とあわせて、防災対策は避けて通れません。一方で、現在政府で検討されている新たな国土形成計画に記載されているように、自然環境を有効に活用し、これまでの(グレイ)インフラストラクチャーとあいまって効果を発揮するグリーンインフラストラクチャーの考え方が、今後の国土整備でも基盤になってきます。豊かな自然環境を有しているこの地域ですので、洪水対策に限らず、グリーンインフラストラクチャーを最大限に取り込み、日本の最先端の事例となるようなまちづくりが望まれると思います。

### 3. 地球温暖化防止と生物多様性保全に取り組むまちづくり

地球温暖化防止と生物多様性保全は、21世紀の地球環境問題の双璧です。問題は極めてグローバルですが、アクションはローカルから起こさなければなりません。この対象地域で、エネルギーの効率化に積極的に取り組むのはもちろんですが、さらに自然再生エネルギーの活用と生物多様性保全の両立をさせる仕組みに取り組む必要があります。具体的には、近年管理がされなくなった里山における木質バイオマスの活用や耕作放棄地や緑地におけるバイオマスの活用が考えられます。対象地域を含む藤沢市北部でも、樹林地を含む緑地は限られており、大きなエネルギーを供給することは不可能ですが、普及・教育的な効果も前提とした取り組みが求められますし、欧米で数多く見られるエコビレッジの構築も可能でしょう。

### 4. グローバル化に対応した誰にでも住みやすいまちづくり

日本の人口が減少する中で、アジア地域の活力をどのように活かすかが日本の国土づくりでも注目されるようになっていきますし、対象地域は教育研究のグローバル化を目指す SFC が位置していますので、今後の日本の街のグローバル化の手本となるようなまちづくりが望まれます。海外からの研究者や留学生を始め、一定期間だけこの場所に留まる人々も増えるでしょうし、周囲に進出する企業で働くために定住する外国人の方もいるでしょう。もちろん、これまでこの地域に長く暮らしていた方もたくさんいらっしゃいますし、他の地域から多くの日本人の学生も滞在します。すべての人にとって住みやすい街は、グローバル化にも対応できる街となるでしょう。出身国や性別、年齢、障害の有無、さらには住民票があるかどうか、どのくらい滞在するか、日本語がしゃべれるかなどを問わず住みやすい街を計画する必要があります。その際に、様々な国々からいらっしゃる人々の宗教や信条にも配慮した街であるべきでしょう。

(2) 小熊祐子委員からの提言

まちづくり基本計画策定検討委員会の委員で慶應義塾大学スポーツ医学研究センター・大学院健康マネジメント研究科の小熊祐子准教授から、健康・医療のまちづくりについてご提言をいただきました。

小熊委員からの提言は、主に「6 - 2 健康・医療のまちづくり」にその趣旨を反映しております。

健康・医療のまちづくり

『医療施設や慶應 SFC を核とした健康まちづくりの提案』

身体活動を中心に

藤沢市 健康と文化の森まちづくり検討委員会委員  
慶應義塾大学スポーツ医学研究センター・  
大学院健康マネジメント研究科准教授 小熊祐子

「まちづくり」で健康に

食事や身体活動（体を動かすこと全般）、喫煙、飲酒といった生活習慣は、大きく健康に影響することはよく知られています。生活習慣、あるいは健康行動自体は、ひとそれぞれの個人の行動ですが、その個人の行動を変え、また維持していくには、人的環境や物的環境も重要であることが、近年強調されています。

これから、まちを整備するのであれば、健康面からは、この点を意識する必要があります。米国では車社会から変遷し、Walkable city, compact city にまちが作り替えられています。

個人の努力に健康行動を委ねるだけでなく、健康的な行動がとれる環境があれば、自然とその行動が身に付くわけです。実際、私たちが行った身体活動と住環境について調査した縦断研究のレビューによると、横断歩道が整備されている、車の速度が遅い、騒音や振動少ないと言った交通の安全面が良好であったり、景観がよい、交通量が制限されている、歩道・自転車道が整備されているといった道路の作りが良好であること、近隣スポーツ施設や公園・広場が充実しアクセスが良い、犯罪が少ない、野良犬が少ないという意味で近隣が安全であること、といった点が身体活動に影響を与えている可能性が示唆されています（平成 22 年度経済産業省 医療・介護等関連分野における規制改革・産業創出調査事業）。オーストラリアでは、既に 2009 年に歩行と環境についての指針が出され、移動のための歩行には、道路の連結性が良いこと、目的地や公共交通機関へのアクセスが良いこと、住居密度が高いことが関連すること、余暇時の歩行では近隣の景観が良いこと、運動場所や公園などへのアクセスが良いことが関連しており、健康部門だけでなく他の部門の協力により、歩行の促進と歩きやすい近隣環境への改善を進めることを推進しています。日本でも現在行われている健康施策健康日本 21（第 2 次）で、運動しやすいまちづくり・環境整備に取り組む自治体の増加を身体活動・運動分野の目標の 1 つに掲げています。



移動の身体活動面では、歩きやすいまちづくりが望まれます。公共交通の充実も不可欠です。いずみ野線の延伸と駅の新設とリンクし、自動車よりも公共交通の方が便利な環境と優遇措置などの検討により、歩く機会が増え、健康にもつながると考えられます。また自転車も移動手段として有効で、健康面でも有益であるため、安全に便利に使用できるよう自転車専用レーンの設置、コミュニティサイクルなどのシステムの導入も検討したいところです。

余暇時間の身体活動（運動・スポーツ）面では、スポーツ施設や公園の整備とそれら施設へのアクセスをよくすることが望まれます。地区やその周辺の豊かな自然を生かしたルート of 環境整備も望まれます。

“医療施設を核とした” という意味では、住民だけでなく、受診者が健康的な生活習慣を確かめられるまち、例えば、適度にウォーキングができるまちなみ、健康的な食事を提供するレストランなどが望まれ、逆に医療施設の方では、食事や運動に関する個別指導ができると思います。特に健診とその後の指導について、街のリソースを利用する、大学のリソースを利用する、といった方法も考えられます。

厚生労働省では、宿泊型新保健指導（スマート・ライフ・ステイ）の試行事業を進めており、都会からのアクセスの良さと充実した自然・近接する大学の強みを生かし、事業展開していくことができるかもしれません。

### (3) 池田靖史委員からの提言

まちづくり基本計画策定検討部会の委員で慶應義塾大学政策・メディア研究科の池田靖史教授から、まちづくりの顔となる駅とその周辺の土地利用や空間構成のあり方についてご提言をいただきました。

池田委員からの提言は、主に「7 土地利用・交通・都市施設等」にその趣旨を反映しております。

#### 藤沢市健康と文化の森新駅周辺のまちづくりに関する提言

藤沢市 健康と文化の森まちづくり検討部会 委員  
慶應義塾大学政策・メディア研究科教授 池田靖史

「駅づくり」は「まちづくり」

公共交通網は社会生活の基盤をなすもので、当然の事ながら鉄道駅的位置や形式などがその周辺駅地域の都市機能や生活様式などの全般に及ぼす影響は非常に大きいことから、駅の交通結節点機能と周辺まちづくりの関係については可能な限り一体的に構想し、緊密な協議と横断的な検討を重ねて行くべきものだといえます。今回の藤沢市健康と文化の森新駅周辺のまちづくりにおいてその中でも特に重要と思われる点について提言いたします。

#### 1 鉄道による南北の分断を避け、地域の一体的な発展を促す事

地形的な理由と建設費の観点から新駅は県道遠藤宮原線と並行する高架方式となる事がほぼ確定的と聞いており、その場合に懸念される鉄道による地区の分断影響について配慮した計画とすべきだと考えます。

- 1.a 高架下についてはできるだけ開放的に利用し、まちづくり上重要な位置における南北の見通しや、一般市民の通行などを確保し、建築的な利用をする範囲も必要ではあるが限定的にとどめたほうが望ましいです
- 1.b 駅出口と周辺のまちを結ぶ動線の形成には、幅員の大きな県道の上空横断が同時に可能な南北に貫通するペDESTリアン・デッキが重要であり、その位置や着地点、デザインなどについて十分に検討すべきです。
- 1.c 貫通ペDESTリアン・デッキと商業空間との連携を促進し、地域全体を南北に貫く歩行者のための商業軸を形成することで、地域全体の利便性が高まり建設中の病院や慶應大学の滞在型教育研究施設群との関係にも配慮することで大学や研究者と地域との交流を積極的に促します。

#### 2 道路や鉄道中心ではなく歩行者のスケール感を意識した都市空間とする事

新規開発地区であるため、土木的なスケール感や自家用車生活型の空間構成に陥らないようにし、楽しく歩けるまちづくりを推進する必要があります

- 2.a 緑地からバスターミナルにいたるまで、ある程度小さなスケールの単位（長さで50M程

度)に意図的に分解することで、変化と多様性が感じられる空間にすることができます

- 2.b 貫通ペDESTリアン・デッキはバスやタクシー乗用車などへの乗り換えだけでなく、大学、病院、そして周辺のフットパスに配慮しつつ、地形的な高低差を活かしたスロープで車いすや自転車などで楽に通行できるものとし、車両中心ではない南北の一体的な歩行者流動を形成すべきです
- 2.c 駅の周辺の歩行者空間にある程度の生活利便施設や健康関連施設を集積して、この地区の住民の生活支援を積極的に行うことで公共交通を中心にした健康的なライフスタイルの促進を意識できます

### 3 谷戸地形を意識して駅空間に自然要素をとりこむ

周辺の景観や自然要素はこの地区の複雑な谷戸地形に強く左右されていることから、駅空間の構成との関係を意識してそれが感じられるようにする必要があります

- 3.a 谷戸の影響で周囲への視線の展開と動線が集まる地点をとくに重視することで、その放射状に展開する構造を駅前空間に活かす事ができます。その一方で斜面部分の緑地や緑化を重視する事で効果的に視覚に訴える事ができます
- 3.b 地形的に周囲の高台からは駅の屋上やデッキ部分も見下ろされることになるため、駅前空間に屋上緑化を積極的に施す事で地域の印象を大きく変え、生態的な連続性にも寄与します。
- 3.c 駅前が地形的に谷底となる事から、洪水対策の修景池などの水系の要素を積極的に演出することで、従来の駅とは違う環境融和の姿が演出できます

### 4 環境の未来を創造できる駅前空間のイメージを作る

健康と文化の森まちづくりにふさわしい、他の場所には見られない画期的な駅前空間を形成する必要があります

- 4.a まちの第一印象を形成する視点場とそこからの景観を特に意識することが重要です。この場合には特にプラットフォーム空間や貫通デッキからの眺望を確保することで交通機能や建築物だけでなく、保全緑地や修景池のような自然要素とバランスがとれた姿を演出する事ができます。
- 4.b 特に富士山を望める景観を意図的に演出することで、地域の特徴を利用者の印象に強く訴える事ができます。また並木道を引き込むなど、もう一つの地域のシンボルとしての大学の存在感を演出するような工夫も重要です
- 4.c 地域のシンボルとしての駅の顔も太陽熱利用や壁面緑化の様な環境配慮的な演出や地域的なエネルギーの利用などを前面に押し出すことで、新しいまちづくりへの先導とする事ができます

# 健康と文化の森地区まちづくり基本計画

2016年（平成28年）3月

藤沢市 計画建築部 都市計画課

都市整備部 西北部総合整備事務所